



Title	Omoituita mama II
Author(s)	福原, 満洲雄
Citation	全国紙上数学談話会. 1934, 8, p. 1-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/73857
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

21. Omituwa Mama II

Hukuhara-Masuo (北大)

與へラレタ 微分方程式、直接 = 取扱いト労多クシテ功少キ
 場合 = 例々 適用スル、サウニフ場合 = ハ豫^x 商^y + 変換ヲ施
 シテ簡単ト、取扱い容易ト形=変形スル必要ニ迫ラレ、又假=
 直接+取扱ヒガ出来テモ簡單+交換テ”一方カラ他方へ移リ得ル
 微分方程式ヲ個々別々言周ベレコトハ余計+労カテアレ、ソレ
 テアルカラ或種、交換テ”一方カラ他方へ移リ得ル微分方程
 式、Classヲ決定スルト云フ問題”，ソレ自身=方ミテモ興味
 カアルコトハ言フ迄モナカ、微分方程式ヲ(近代的意味ニ於
 テ)解クトニフ 微分方程式論本來ノ目的=対シテモ重要+役割
 リラシ演スル、此意味ニ於テ 中野君、御研究(線形常微分
 方程式)解ク、topologische Abbildungen = 東大テ)=対シテ
 非常+興味ト期待トカケラレ、尚以下ニ於テ 松川ガ“言葉ン
 タ”自舜向奇異ニ感シテアヘリ述ベサセテ頂キタイ。

一階微分方程式の場合、結論カ”早過キ”タトハ敢^ト向
 程、コトモナカ。

二階 微分方程式の場合 = 方ミテ

$$\frac{d^2y}{dx^2} = 0 \quad \text{ト} \quad \frac{d^2z}{dx^2} = 0$$

トハ、 $y=x$, $x=z+\tau$ 変換テ”一方カラ他へ移リ得ルモ指
 ラス”此変換”

$$\begin{cases} y = \alpha(x)z + \beta(x) \\ z = \psi(t) \end{cases}$$

ナレ形ヲ持タナレ、併シ此疑問ハ言証明シミレバ"自然ニ解决サレル、更ニ振返ツテ木標是題ヲミレバ"成程自分ノ不注意、グッタト云フコトニナリ相テアレ、タガ"普通ニハ或變換テ"一ツノ微分方程式カ"他ノ微分方程式ニ移ルト云フトキニハ其等ノ微分方程式ノ解與同ニ一対一ニ連続ナ対応ガ一ツノ例外モナニツケラレルト云フ意味ニ解釈シテ居レタラウカ、上ニ擧ゲタ例テハオーノ方程式、 $y = (\text{常数}) + \text{ル解ニ対シテハオニ方程式ノ解} \neq \text{対応シナイ"アル、併シ } t = (\text{常数}) \text{ カ"オニ方程式ノ解} \neq \text{対応ナイトコトハニツノ变数一方ヲ独立、他方ヲ從属トシタ不自然ナ制限、} \rightarrow \text{生ジタ現象ニ過ギ"アル、故ニ } t = (\text{常数}) \text{ カ"本來、意味ニ於テ解ニナクテモ幾何学的ナ議論ヲスル場合ニハ、ソレテ"積分曲線ト見做ストカ"不當タラウカ、併シ定義上、議論ハ水掛論ニ過ギ"ナリ、唯オレトシテ、希望ハ数学上、常識テ"想ノツク事柄、容易ト推論ナドハ志ヘ筋道カ"ワカル様、大サツハナ書振"方ガヨイガ"普通ト異ツタ意味ニ同ニ言葉ヲ使ツ様、紛レ起り易イ場合ハ意味ヲハツキリ説明スルナリ、適当ナ注意カ"欲シト云フコトテ"アル、$

尚其後、御研究、成果ハ大イニ旨目スベキモノガ

アラウ、ソレガ"発表サレルモノ一目モ早カラントラ原貢ヒツツ
筆ヲキ閣7.
(9.8.20'受取)

正誤 Omoituita Mama — Hukuhara Masao (オナ号)

6頁, 10行目ト11行目ト1回=

wa Teido wo Sageru to in koto dy. a mai.

Mudukasii, wakarinikui Kotogara

が月兔ケテ居マス。

正誤 互=素+ル Diskriminante ≠ 有スル Algebren
klasse' 積=ツイテ — 正田建次郎 (オナ号)

III. '計算ハ向違ツテ居マシタ. $O_g \times O_{g_2}$, Diskriminante $\wedge \frac{I^n}{I_g} \frac{J^m}{J_{g_2}}$ =ハナリマセン. 従ツツ $O_g \times O_{g_2}$,
Maximalordnung =ハナリマセン, ソレテ" → 後、事柄、
向違ツテ居マシタ.

III

"アガ" zerfallenシテ居ル場合ニハ併シ $O_g \times O_{g_2}$ が
Maximalordnung =+ルカケテスカラ IIIガ何フナ場合ニ
成エスルカハーツノ問題ニ+ルワケテス.

以上ハ車至井沢テ"一縁者ニナツタ 中村正君、御注意
ニヨツテ 分ツタ事テ"ココニ 訂正致シマス.